

半田市立半田病院新病院建設工事
施工予定者選定プロポーザル

評価結果報告書

令和3年7月7日

半田市立半田病院新病院建設工事
施工予定者選定プロポーザル評価委員会

はじめに

半田市立半田病院（以下「半田病院」という。）は、令和元年11月に「半田市立半田病院新病院建設構想（改訂版）」を策定し、この内容を踏まえて、令和2年4月に設計者を選定し、基本設計をまとめました。

現半田病院は、老朽化や狭隘化の問題から、早期建替えが求められており、半田病院新病院の建設事業は、非常に厳しいスケジュールで進めています。

そのため、事業スケジュールを遅延させることなく、また、事業費内での建設を確実なものとするために、設計段階から施工者が関与する方式を採用することが効果的であると判断しました。

そこで本事業では、設計業務に対する技術協力を通じて、施工者の持つ高度な技術を実施設計に取り入れるとともに、設計段階から施工計画の検討を行うことにより、遅延することなく事業を実施することができるE C I方式を採用することとし、令和3年2月に、半田市立半田病院新病院建設工事施工予定者選定プロポーザル評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、施工予定者を公募型プロポーザルにより選定することとしました。

半田市長から委嘱を受けた7名の評価委員が、2回にわたる評価委員会を開催したなかで、最優秀者、次点者を特定するに至りました。

1 半田市立半田病院新病院建設工事施工予定者選定プロポーザル評価委員会

評価委員（順不同・敬称略）

委員長	奥宮 正哉	名古屋大学 名誉教授
副委員長	福和 伸夫	名古屋大学減災連携研究センター 教授
	堀寄 敬雄	半田市 副市長
	山本 卓美	半田市 総務部長
	石田 義博	半田病院 院長（令和3年3月31日まで）
	渡邊 和彦	半田病院 副院長（令和3年4月1日からは院長）
	岡田 禎人	半田病院 副院長（令和3年4月1日から）
	白井 麻希	半田病院 看護局長

2 特定までの経緯

令和3年	2月22日（月）	第1回評価委員会（書面開催）
令和3年	3月15日（月）	プロポーザル公告
令和3年	3月23日（火）	参加表明書に関する質疑提出期限
令和3年	3月26日（金）	質疑回答
令和3年	3月30日（火）	参加表明書等の提出

令和3年	3月31日	(水)	参加資格要件審査結果通知
令和3年	4月2日	(金)	技術提案等に関する質疑提出期限
令和3年	4月9日	(金)	質疑回答
令和3年	4月15日	(木)	VE提案書の提出
令和3年	4月23日	(金)	VE提案の採否通知
令和3年	5月27日	(木)	技術提案書等の提出
令和3年	6月4日	(金)	プレゼンテーション及びヒアリング 第2回評価委員会、最優秀者等特定

3 審査経過

(1) 参加表明書等の提出状況について

令和3年3月15日にプロポーザルの公告を行ったところ、参加表明書等の提出日である3月30日の午前9時から午後3時までの間に、2者から参加表明書等が提出されました。

半田市立半田病院新病院建設工事施工予定者選定プロポーザル実施要領に基づき、提出された参加表明書等の内容を確認し、参加資格を満たしていることを確認しました。

(2) VE提案書の提出状況について

2者から合計67件、1,794,870千円のVE提案が提出され、48件に対して採用又は部分採用、19件に対して不採用と回答いたしました。

(3) 技術提案書等の提出状況について

5月27日(木)に、参加表明書等の提出があった2者から技術提案書等が提出されました。

(4) プレゼンテーション及びヒアリングの実施について

半田市立半田病院新病院建設工事施工予定者選定プロポーザルにおけるプレゼンテーション及びヒアリングを実施要領に基づいて、次のとおり実施しました。

- ・ 説明員は、技術協力業務責任者1名、監理技術者1名、各担当者のうち2名及びパソコン操作者1名の5名とする。(技術協力業務責任者と監理技術者を兼務する場合は、担当者を3名までとする。)
- ・ プレゼンテーション及びヒアリングの順番は技術提案書等の受付順とし、説明員からの説明を受けた後、評価委員がヒアリングを行うものとする。
- ・ プレゼンテーションは1者につき25分以内とし、ヒアリングは25分以内とする。
- ・ プレゼンテーションに際しては、提出した様式5-1～5-6の内容のみとする。

る。なお、提案者を特定することができる内容の記述（具体的な会社名等）は記載しない。

- ・ 公平を期すため、プレゼンテーション、ヒアリング及び審査は非公開とする。

(5) 評価結果について

半田市立半田病院新病院建設工事施工予定者選定プロポーザル実施要領に基づき、提出された技術提案書等により審議を行いました。その結果は、次のとおりです。

【評価結果】

株式会社大林組名古屋支店	得点 40.02点
大成建設株式会社名古屋支店	得点 10.23点

協議の結果、得点の多い者から順に、最優秀者、次点者として特定しました。

4 講評

別紙「半田市立半田病院新病院建設工事施工予定者選定プロポーザル講評」による。

別紙

半田市立半田病院新病院建設工事施工予定者選定プロポーザル講評

「半田市立半田病院新病院建設工事施工予定者選定プロポーザル評価委員会」（以下「評価委員会」という。）は、学識経験者2名、半田市副市長、半田市総務部長、半田病院長、半田病院副院長、半田病院看護局長の合計7名で構成され、厳正、公正かつ慎重な審査を行いました。

令和3年3月15日にプロポーザルの公告を行ったところ、参加表明書等の提出日である3月30日に、2者から参加表明書等が提出され、参加資格要件審査を経て、5月27日に、その2者から技術提案書等の提出があり、6月4日に技術提案書に基づくプレゼンテーション及びヒアリングを実施しました。

プレゼンテーションのテーマは、「実施設計段階の実施方針」「基本設計への改善提案」「施工段階の実施方針」「工期を遵守するための提案」及び「地域貢献に関する提案」としました。ヒアリングでは、E C I方式の強みである実施設計時からの協力体制や免震システムの性能確認試験方法、市内業者の活用計画等について質問がありました。

プレゼンテーション及びヒアリングを行った後、評価委員会においてプレゼンテーションの内容等の評価を行い、提案者の過去の実績や概算見積の費用を加味したうえで、最優秀者として株式会社大林組名古屋支店、次点者として大成建設株式会社名古屋支店を選定しました。

新しい半田市立半田病院（以下「半田病院」という。）の敷地は、現在地から約4km西方に離れた丘陵地にあること、また、その場所は、土地改良事業を施行する前は谷地であったことや周辺に活断層が想定されていることから、今後予想される南海トラフ巨大地震や内陸型地震への理解、激甚化する風水害への対応、地球環境時代での省エネルギー対策などへの理解と解決能力、さらに、日々進化する医療を提供するための病院建築への理解をしたうえで、E C I方式を十分に生かし、また運用時を十分に考慮した実施設計、施工にわたる総合的な技術提案能力等について審査しました。

最優秀者となった株式会社大林組名古屋支店は、「実施設計段階の実施方針」において、フロントローディング手法を基本として、発注者・設計者との綿密なコミュニケーションを重視し、また、その手法としてデジタル3Dによる空間の見える化、ICTツール活用を含めた各種の会議体の設置を提案されていました。また、コストコントロールについては、見える化、設計者との連携、VE候補のストックという3つの手法でコスト増加抑制を抑制するとしていました。次に「基本設計への改善提案」においては、構造面では、自社保有の三次元振動台を使用した性能試験への対応や鉛直変位を計測管理しながら個別スライドと複数ジャッキ同時スライド方式による安全

な残留変位回復に関する提案がされていました。また、設備面では、臭気対策としてバックアップ用の活性炭フィルター設置スペースの確保、臭気モニタリング孔の設置、変位量1,800mmの免震継手の開発に関する提案がされていました。さらに感染対策としては、自社開発の自動噴霧除菌装置の設置、非常時における隔離病棟設置支援、エスカレータの安全性、清潔性確保の提案がなされていました。「施工段階の実施方針」においては、やはり各関係者間での対話を重視し、継続してBIM等の可視化を活用すること、維持管理に対しては長期修繕計画の立案、見える化によるメンテナンスの容易化と精度向上、周辺住民への配慮、SDG'sへの貢献が提案されていました。「工期を遵守するための提案」では、BIMの活用、免震装置下の充填工法、地盤アンカー工法、その他省力化などによる工期短縮が提案されていました。そして「地域貢献に関する提案」においては、市内業者の活用（建設、資材）、市内生産品の積極的な活用その他を見積もっており、また地元教育機関との連携による人材育成を提案していました。

評価委員会では、これらにおいて、ECI方式を採用する意義を十分に理解した提案になっていると評価されました。

次点者である大成建設株式会社名古屋支店は「実施設計段階の実施方針」において、フロントローディング手法を基本として、ICTツールの活用を含めたECIコンシェルジュが運営する発注者・設計者、ECI事業者の「三者協議準備会」の実施、BIM、VRを活用した免震層の検証を提案していました。また、コストコントロールについては、設計スケジュールに合わせた段階的なコスト調整と、コスト算出根拠の明確化を提案していました。次に「基本設計への改善提案」においては、構造面では、国立研究開発法人土木研究所の三次元振動台を使用した性能試験、設計クリアランスに対応したエクспанションジョイントの提案、残留変位を回復する手法の提案、解析による液状化対策の提案などがされていました。また、設備面では、臭気対策として、一部の外気処理空調機へのエアワッシャーの組み込み、変位量1800mmの免震建物への継手の対応、またBCP対策として、トリアージスペースの非常用電源確保、軽症者受け入れエリアへの非常用コンセント、医療用アウトレットの設置などを提案していました。さらに感染対策としては、疑似症患者対応スペースへの前室設置、感染入院患者増への対応、重症患者対応の病室増加への対応、その他殺菌、抗菌の対応が提案されていました。「施工段階の実施方針」においては、やはり各関係者間での対話を重視し、継続してBIM等の可視化を活用するとともにモデルルームの設置、維持管理に対してはアフターケアチームの設置、円滑な運用開始支援、長期修繕計画の立案支援、施工時のコミッションング、追加変更対応などが提案されている。「工期を遵守するための提案」では、造成レベルの工夫、免震階の擁壁鉄筋のユニット化、空調室外機と冷媒配管のユニット化、モデルルーム活用、調達の工夫、その他による工期短縮が提案されていました。そして「地域貢献に関する提案」においては、

市内業者の活用（建設、資材）、市内生産品の積極的な活用その他を見積もっており、また地元業者の人材育成を提案していました。これらにおいても、E C I方式を採用する意義を十分に理解した提案になっていると評価されましたが、基本設計への改善提案の一部において、設計意図との整合性についての疑問が呈されました。

そのうえで、2者に共通することとして、次のことを十分に検討する必要があるという議論がなされました。

- ・ E C Iの意義、メリットを有効にするための、さらなる施工者のノウハウの活用
- ・ コストの透明化の検討
- ・ 免震システムの試験の試験項目、試験方法の適正化、適正なスケジュールによる実施
- ・ E S事業との連携。E S事業者が担当する空調熱源との取り合い、運用における設定の整合性、など
- ・ E S事業との連携。E S事業者が担当するFM業務とE C I事業者が提案している長期運用、修繕計画などの関連の精査
- ・ 上記による病院の高品質を前提とした施主、事業者を合わせた全体コスト（イニシャルコスト、ランニングコスト、ライフサイクルコスト）の極小化

今後、特定された者がE C I事業を進めるにあたっては、半田病院との対話を通して、より提案内容を充実させるとともに、「私たちは、良質な医療の提供を通じて、地域社会に貢献します。」という半田病院の理念や、「知多半島中南部全域における中核病院として、救急医療を中心とした政策的医療を継続的に担うとともに、がんをはじめとする重要疾病への対応を強化する。」という新病院整備にあたっての方向性にふさわしい新病院の実現を目指していただきたいと思います。

終わりに、本プロポーザルに参加され、貴重な時間を費やして真摯に努力いただいた関係各者に心より感謝いたします。

また、半田市の自然・歴史・伝統・文化を大切にするまちづくりを体現し、市民に親しまれ、市民の誇りとなる新病院が整備されることを祈念いたします。

令和3年7月7日

半田市立半田病院新病院建設工事
施工予定者選定プロポーザル評価委員会
委員長 奥 宮 正 哉